科目ナンバー	LIN-1-015-sn 科目名 国語表現(情報 F3·児童)						
数員名	青木 祐子		開講年度学	期 2020	期 2020年度 前期 単位数		2
災要	本授業では、これからの大学生活や社会生活に必要な日本語表現(主に「書くこと」)を学び、考えます。「書くこと」に焦点を当てた日本語表現のスキルアップを目指します。これからの国際社会に生きていくためは、誰に対しても、正確で快いことばの使い手(表現者)でなければなりません。理想的なことばの使い手(表現者)となるためには、相手のことを考えた表現、相手を思いやる表現を常に心がけることが何よ						
到達目標	本授業の目标 ることです。 I えためにはど 必要な日本記	りも大切です。 本授業の目標の第一は、受講者一人一人が書くことの基本を習得し、自分なりに表現する「コツ」を会得することです。日常生活において、自分の伝えたい情報や思いを、より正確により効率よく、相手に快く伝えためにはどのように書けばよいか、受講者全員で探ります。目標の第二は、大学での学習・研究生活に必要な日本語基本スキルの習得です。レポートや論文の作成、またその準備としての文章資料の要約の方法など基本的な技術を学びます。					
共愛12のカ」と	の対応						
哉見		自律する力	コミュニケー	ションカ	問題(こ対応する力	
共生のための知:	哉 〇	自己を理解する力	伝え合う力	(分析し	ノ、思考する力	0
共生のための態!	隻 〇	自己を抑制する力	協働する力		構想し	ノ、実行する力	0
グローカル・マイ ンド		主体性	関係を構築	する力	実践的	的スキル	0
法	<課題のフ グループで	ィードバック方法>	を学習をします。こちら 発表後に、教員がコメン				
アクティブラーニン	。 ング (サービスラ	指導に加え、学習確認:	シートや課		て適宜指導を行	行います
アクティブラーニン 受講条件 前技 科目	。 ング 情報 F3の 児童教育コ 受講可能で	サービスラ 学生は必修です。 ロースの学生は、情報に	ラーニング F3の学生数が定員数に	シートや課	題の返却を通し 果題解決型学修	で適宜指導を行	\supset
受講条件 前接科目 アセスメントポリシー及び評価方法	・	サービスラ 学生は必修です。 リースの学生は、情報にです。 業は必ず出席すること ントポリシー> はり組みについては、「 的に評価します。 ついては、「分析し、思 ま〉 はり組み(平常点、発表 出を求められるレポー の「日本語検定」2級 でに新聞に投書が採用	ラーニング F3の学生数が定員数に	シートや課	理題の返却を通し 理題解決型学修 った場合、1年生 の態度」「伝え合 「実践的スキル」 ート)(60%) ・)(40%) 各者は「良(B)」以	で適宜指導を行って適宜指導を行った。 (2年生) で、2年生 うカ」「協働する	ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・
受講条件 前抗 科目 アセスメントポリ シー及び評価方法	・ グ 情児受第 「	サービスラ学生は必修です。 ロースの学生は、情報にです。 業は必ず出席すること といれます。 なり組みについては、「分析し、思いては、「分析し、思いとす。」 といては、「分析し、思いとなり。 に対します。 こいては、「分析し、思いと」 に対します。 こいでは、「分析し、思いとないでは、「分析し、思いとない。」 に対します。 この「日本語検定」2級に対します。 この「日本語検定」2級に対します。	テーニング F3の学生数が定員数に と。 共生のための知識」「共 は考する力」「構想し、実行 では、意見交換や討論、学 ト、全授業後に提出す な合格者は「優(A)」以上 引された者には、成績に	シートや課 ・及ばなか 生のための でするカ」 習確認・一トでは、3級加点	関の返却を通し 果題解決型学修 った場合、1年生 の態度」「伝え合 「実践的スキル」 ート)(60%) ・)(40%) 各者は「良(B)」以 する。	て適宜指導を行 (で を を で、2年生 で、2年生 で、2年生 で、2年生 で、2年生 で、2年生 で、2年生	をまでが らカ」と に評価 乗条件)。
受講条件前が科目アセスメントポリシー及び評価方法教材	でである。 では、	サービスラ学生は必修です。 ロースの学生は、情報にです。 業は必ず出席することが、まなが、は必ず出席することが、は必ず出席することが、のいては、「分析し、思いとなりにでは、「分析し、思いとなりにも、、発表では、「日本に、発表では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では	テーニング F3の学生数が定員数にと。 共生のための知識」「共場する力」「構想し、実行表、意見交換や討論、学ート、全授業後に提出する合格者は「優(A)」以上	シートや課 ・ 及ばなか 生の るか ・ では、 ・ では、 、 では、	関の返却を通し 果題解決型学修 った場合、1年生 の態度」「伝え・ル」 の態度」「伝え・ル」 ート)(60%) ト)(40%) 各する。 事のとうでは、 を対している。 を対している。 とうのでは、 を対している。 とうのでは、 をする。 とうのでは、 とのでは、 と	で適宜指導を行って適宜指導を行った。 2年生 うカ」「協働する として、総合的 以上(いずれも無 2016 『グループタディ・スキルズ	きまでがらカ」といいに評価に無条件)。
受講条件 前技 科目 アセスメントポリ	でできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	サービスラ学生は必修です。 ロースの学生は、情報にです。 業は必ず出席することが、まなが、は必ず出席することが、は必ず出席することが、のいては、「分析し、思いとなりにでは、「分析し、思いとなりにも、、発表では、「日本に、発表では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では	テーニング F3の学生数が定員数にと。 共生のための知識」「共場する力」「構想し、実行を見交換や討論、学一ト、全授業後に提出する合格者は「優(A)」以上目された者には、成績に行きを書くトレーニング』(び書房)学習技術研究会総と2005『「超」読解力』(である)	シートや課 ・ 及ばなか 生の るか ・ では、 ・ では、 、 では、	関の返却を通し 果題解決型学修 った場合、1年生 の態度」「伝え・ル」 の態度」「伝え・ル」 ート)(60%) ト)(40%) 各する。 事のとうでは、 を対している。 を対している。 とうのでは、 を対している。 とうのでは、 をする。 とうのでは、 とのでは、 と	で適宜指導を行って適宜指導を行った。 2年生 うカ」「協働する として、総合的 以上(いずれも無な)で、スキルス	きまでがらカ」といいに評価に無条件)。
受講条件前が科目アセスメントポリシー及び評価方法教材	でできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	サービスラ学生は必修です。 ロースの学生は、情報にです。 業は必ず出席することが、まなが、は必ず出席することが、は必ず出席することが、のいては、「分析し、思いとなりにでは、「分析し、思いとなりにも、、発表では、「日本に、発表では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、「日本に、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では	テーニング F3の学生数が定員数にと。 共生のための知識」「共場する力」「構想し、実行を見交換や討論、学一ト、全授業後に提出する合格者は「優(A)」以上目された者には、成績に行きを書くトレーニング』(び書房)学習技術研究会総と2005『「超」読解力』(である)	シートや課 ・ 及ばなか 生の るか ・ では、 ・ では、 、 では、	関の返却を通し 果題解決型学修 った場合、1年生 の態度」「伝え・ル」 の態度」「伝え・ル」 ート)(60%) ト)(40%) 各する。 事のとうでは、 を対している。 を対している。 とうのでは、 を対している。 とうのでは、 をする。 とうのでは、 とのでは、 と	で適宜指導を行って適宜指導を行った。 2年生 うカ」「協働する として、総合的 以上(いずれも無な)で、スキルス	きまでがらカ」といいに評価に乗条件)。
受講条件 前接 科目 アセスメントポリ シー及び評価方法 教材 参考図書 内容・スケジュー 1週目	ング 情児受第 〈授しレし〈授レ受受 授 野でスめている。 イング 情児受第 〈授しレし〈授レ受受 授 野でスめている。 一寸価へ一期期 者 尚本ッ文 一寸価へ一期期 者 尚本ッ文 はいました。 一寸 では メ 取合に 方の に間間 が 史語 』 ました。 おりに はいました。 おりに はいました。 はいまた。 はいまた。 はいまた。 はいました。 はいました。 はいました。 はいました。 はいまた。 はいました。 はいました。 はいまた。 はいました。 はいました。 は	サービスラ学生は必修です。 ロースの学生は、情報にです。 業は必ず出席することがは必ず出席することがは必ず出からいては、「分析し、思めにでは、「分析し、思めいては、「分析し、思いとなり組み(平常点、発表中の「日間間、一般とは、「発表を表すの「日間である」2級カーでは、「分析し、思いないでは、「分析し、思いないでは、「分析し、思いないでは、「分析し、思いないでは、「分析し、思いないでは、「分析し、思いないでは、「分析し、思いないでは、「発表」というという。 現力を表することには、表現カーを表現カーでは、「表現カーを表現カーでは、「のじょうしないでは、「のじょうしないでは、「現力を表する」(表現カーを表現カーを表現カーでは、表現カーを表現カーを表現カーを表現カーを表現カーを表現カーを表現カーを表現カーを	テーニング F3の学生数が定員数にと。 共生のための知識」「共場する力」「構想し、実行を見交換や討論、学一ト、全授業後に提出する合格者は「優(A)」以上目された者には、成績に行きを書くトレーニング』(び書房)学習技術研究会総と2005『「超」読解力』(である)	シートや課 ・ 及ばなか 生の るか ・ では、 ・ では、 、 では、	関の返却を通し 果題解決型学修 った場合、1年生 の態度」「伝え・ル」 の態度」「伝え・ル」 ート)(60%) ト)(40%) 各する。 事のとうでは、 を対している。 を対している。 とうのでは、 を対している。 とうのでは、 をする。 とうのでは、 とのでは、 と	で適宜指導を行って適宜指導を行った。 2年生 うカ」「協働する として、総合的 以上(いずれも無な)で、スキルス	きまでがらカ」といい。

及業学修内容	容	を挙げ、書き直してみよう。	時間数	1
(大学・作性) 1 (の速ル・呼応関係、わかりやすい文章の書き方、高末せる文章の書き方) 日本学・作性 日本学・作用 日本学	2週目			
接案が予修内 音方について、高权の教料書や国語便能などを見返して、復習しよう。 1	授業学修内容	· ·	ヽ、話しことば	と書きこと
技業学修内容	授業外学修内 容	と書きことばの違い、呼応関係、わかりやすい文章の書き方、読ませる文章の	時間数	1
	3週目			
接案外等條内	授業学修内容	大学のラジオCMを作ろう		
授業学修内容 (演習) お知らせ文書の書き方 投業外学修内容 自分が受け取った文書やメールを見返し、多数の人に一斉に発信する文書を 音くときには、どのようなことに気を付かなければならないか考えよう。 時間数 1 日 日 日 日 日 日 日 日 日	授業外学修内 容	夫をすればよいか考えよう。手元にある家庭用電化製品などのマニュアルを 見て、子どもやお年寄りが読んでも理解できるようにするにはどのように書	時間数	1
授業外学修内	4週目			
容 書くときには、どのようなことに気を付かなければならないか考えよう。 時間数 1	授業学修内容	<演習>お知らせ文書の書き方		
接案学修内容 短い文章の書き方(投稿)	授業外学修内 容		時間数	1
授業外学体内	5週目			
容 うな書き方をすればよいか考えよう。 時間数 1 授業学修内容 文章の読み方 (マーキング) 授業外学修内	授業学修内容	短い文章の書き方(投稿)		
授業学修内容 文章の読み方(マーキング) 授業外学修内	授業外学修内 容		時間数	1
授業外学修内	6週目	•		
容 う。 特別数 2 7週目 授業学修内容 〈演習〉企画書の書き方 授業外学修内 容 要約の仕方PC使用 授業外学修内容 要約の仕方PC使用 授業外学修内容 (演習〉アンケート用紙の書き方 授業外学修内容 フンケート用紙を作ってみよう。 時間数 2 9週目 授業学修内容 〈演習〉アンケート用紙を作ってみよう。 時間数 1 10週目 授業学修内容 しポート・論文の書き方(1)レポート制作の過程*課題レポートテーマの出題 授業外学修内 容 1 11週目 授業外学修内 名 (演習〉レポート・論文の書き方(2)「はじめに」の書き方(教科書14) 授業外学修内 名 (演習〉レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方(2)所は (1)	授業学修内容	文章の読み方(マーキング)		
投業学修内容 (演習)企画書の書き方 企画書とはどのようなものなのか、インターネットで調べてみよう。 時間数	授業外学修内 容	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	時間数	2
投業外学修内 空画書とはどのようなものなのか、インターネットで調べてみよう。 時間数 1 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	7週目		•	
容 企画者とはそのようなものなのが、インターネットで調べてみよう。 時間数 「	授業学修内容	<演習>企画書の書き方		
接業学修内容 要約の仕方PC使用 第6回に読んだ新書(説明的な文章)を要約してみよう。 時間数 2 9週目 接業学修内容 (演習〉アンケート用紙の書き方 投業学修内容 アンケート用紙を作ってみよう。 時間数 1 1 1 1 1 1 1 1 1	授業外学修内容	企画書とはどのようなものなのか、インターネットで調べてみよう。	時間数	1
接業外学修内容 第6回に読んだ新書(説明的な文章)を要約してみよう。 時間数 2 9週目 接業学修内容 〈演習〉アンケート用紙の書き方 授業外学修内 アンケート用紙を作ってみよう。 時間数 1 10週目 授業学修内容 レポート・論文の書き方(1)レポート制作の過程*課題レポートテーマの出題 日分のレポートのテーマについて考えよう。 時間数 1 1 11週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(2)「はじめに」の書き方(教科書14) 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(1冊目)読もう。 時間数 2 12週目 授業学修内容 レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方PC使用 授業外学修内容 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。 時間数 2 13週目 と 13週目	8週目	1	I	
容 第6回に読んだ新書(説明的な文章)を要約してみよう。 時間数 2 9週目 授業学修内容 〈演習〉アンケート用紙の書き方 授業外学修内容 アンケート用紙を作ってみよう。 時間数 1 10週目 授業学修内容 レポート・論文の書き方(1)レポート制作の過程*課題レポートテーマの出題 授業外学修内容 自分のレポートのテーマについて考えよう。 時間数 1 11週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(2)「はじめに」の書き方(教科書14) 授業外学修内容 「自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(1冊目)読もう。 時間数 2 12週目 授業学修内容 レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方PC使用 授業外学修内容 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。 時間数 2 13週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)	授業学修内容	要約の仕方PC使用		
授業学修内容	授業外学修内 容	第6回に読んだ新書(説明的な文章)を要約してみよう。	時間数	2
授業外学修内 アンケート用紙を作ってみよう。	9週目		•	
おりか	授業学修内容	<演習>アンケート用紙の書き方		
授業学修内容 レポート・論文の書き方(1)レポート制作の過程*課題レポートテーマの出題 授業外学修内 自分のレポートのテーマについて考えよう。 時間数 1 11週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(2)「はじめに」の書き方(教科書14) 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(1冊目)読もう。 時間数 2 12週目 授業学修内容 レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方PC使用 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。 時間数 2 13週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)	授業外学修内 容	アンケート用紙を作ってみよう。	時間数	1
授業外学修内 自分のレポートのテーマについて考えよう。 時間数 1 11週目	10週目			<u>- </u>
容 目分のレポートのテーマについて考えよう。 時間数 1 11週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(2)「はじめに」の書き方(教科書14) 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(1冊目)読もう。 時間数 2 12週目 授業学修内容 レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方PC使用 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。 時間数 2 13週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)	授業学修内容	レポート・論文の書き方(1)レポート制作の過程*課題レポートテーマの出題		
授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(2)「はじめに」の書き方(教科書14) 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(1冊目)読もう。 時間数 2 12週目 授業学修内容 レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方PC使用 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。 時間数 2 13週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)	授業外学修内 容	自分のレポートのテーマについて考えよう。	時間数	1
授業外学修内容 日分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(1冊目)読もう。 時間数 2 12週目	11週目			
容 目分のレポートのテーマに沿った図書を「冊(「冊目)読もつ。 時間数 2 12週目 授業学修内容 レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方PC使用 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。 時間数 2 13週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)	授業学修内容	<演習>レポート・論文の書き方(2)「はじめに」の書き方(教科書14)		
授業学修内容 レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方PC使用 授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。 時間数 2 13週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)	授業外学修内 容	自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(1冊目)読もう。	時間数	2
授業外学修内 自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。 時間数 2 13週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)	12週目	•	-	-
容 目分のレホートのテーマに沿った図書を「冊(2冊目)読もつ。 時間数 2 13週目 授業学修内容 〈演習〉レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)	授業学修内容	レポート・論文の書き方(3)形式、体裁、参考文献の書き方PC使用		
13週目 授業学修内容 <演習>レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)		自分のレポートのテーマに沿った図書を1冊(2冊目)読もう。	時間数	2
		•		
	授業学修内容	<演習>レポート・論文の書き方(4)「本文」の書き方(教科書14)		

容	レポートを書こう。	時間数	2	
14週目				
授業学修内容	書類の書き方			
授業外学修内 容	自己アピールと履歴書を書いてみよう。	時間数	2	
15週目				
授業学修内容	手紙の書き方、まとめ*レポートの提出			
授業外学修内 容	レポートを推敲しよう。	時間数	1	
上記の授業外学修時間の合計			21	
その他に必要な自習時間		69		

Number	LIN-1-015-sn		Japanese Expression			
Name	青木 祐子(Aoki Yuko)	Year and S emester	First semester fo r 2020	Credits	2	
Course O utline	In this course, we will think about and learn Japanese expressions (particularly writing) that will be necessary in both university and society. In order to live in the international society of the future, we must be able to accurately and pleasantly express ourselves to anyone. In order to express ourselves ideally, it is most important to always use expressions that think about and are considerate of the person you are talking to.					